

製品名: FGFR1 (1X7) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe10943**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:100-1:200,IP 1:50-1:200
分子量	92kDa

抗原情報

遺伝子名	FGFR1
別名	BFGFR; CD331; CEK; FGFBR; FLG; FLJ99988; FLT2; HBGFR; KAL2; N-SAM; OGD;FGF Receptor 1;
遺伝子 ID	2260.0
SwissProt ID	P11362
免疫原	ヒト FGFR1 の合成ペプチド

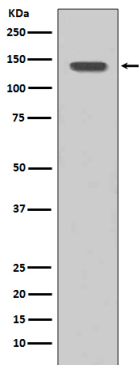
背景

線維芽細胞増殖因子 (FGF) は、細胞表面受容体チロシンキナーゼを介したシグナル伝達によって、標的細胞において細胞分裂促進作用および血管新生作用を発揮します。各受容体は、細胞外リガンド結合ドメイン、膜貫通ドメイン、および細胞質キナーゼドメインを有します。リガンド結合および二量体形成後、受容体は特定のチロシン残基でリン酸化されます。FGFR1 の細胞質側末端にある7つのチロシン残基 (Tyr463、583、585、653、654、730、および 766) がリン酸化されます。線維芽細胞増殖因子の細胞表面受容体として機能するチロシンタンパク質キナーゼは、胚発生、細胞増殖、分化、および遊走の調節において重要な役割を果たします。胚発生中の正常な中胚葉パターン形成と正しい体軸形成、正常な骨格形成、およびゴナドトロピン放出ホルモン (GnRH) 神経系の正常な発達に必要です。PLCG1、FRS2、GAB1、および SHB をリン酸化します。リガンド結合は、いくつかのシグナル伝達カスケードの活性化につながります。PLCG1 の活性化は、細胞シグナル伝達分子であるジアシルグリセロールとイノシトール 1,4,5-トリスリン酸の生成につながります。FRS2 のリン酸化は、GRB2、GAB1、PIK3R1、および SOS1 のリクルートメントを誘発し、RAS、MAPK1/ERK2、MAPK3/ERK1、MAP キナーゼシグナル伝達経路、および AKT1 シグナル伝達経路の活性化を媒介します。SHC1、STAT1、および PTPN11/SHP2 のリン酸化を促進します。核内では、RPS6KA1 および CREB1 の活性を増強し、転写制御に寄与する。FGFR1 シグナル伝達は、IL17RD/SEF、および FGFR1 のユビキチン化、内在化、分解によってダウンレギュレーションされる。

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;Adherens_Junction;アクチンと細胞骨格を制御;がんにおける経路;前立腺がん;黒色腫;

画像データ



SH-SY5Y 細胞溶解物中の FGFR1 発現のウェスタン ブロット解析。